

令和3年度
保護林モニタリング調査
公表資料

西ノ川山トガサワラ（遺伝資源）希少個体群保護林
魚梁瀬トガサワラ（遺伝資源）希少個体群保護林
安田川山トガサワラ（遺伝資源）希少個体群保護林

令和4年3月

四 国 森 林 管 理 局

有限会社 エー環境研究所

西ノ川山トガサワラ（遺伝資源）希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	四国森林管理局安芸森林管理署管内
所在地	高知県安芸市（美舞谷山国有林 35 林班ろ小班）
面積	7.88 ha
設定年	設定：大正 5 年 8 月 変更：平成 30 年 4 月
保護林の概要 （設定目的）	標高約 450～780m に位置し、暖温帯に属する。 トガサワラのほか、ヒノキ、アカマツ、モミ、ツガ、アカガシ等が生育している。 希少種のトガサワラ（環境省レッドリスト(2015 年)の「絶滅危惧 I B 類(EN)」、高知県レッドリスト(2010 年)の「絶滅危惧 II 類(VU)」）が生育しており、保護林設定管理要綱の第 4 の 3 (2) のア「希少化している個体群」に該当する。 トガサワラの個体群の維持・増殖を目的に設定。



モニタリング調査の概要

実施年度	令和 3 年度
調査項目	基礎調査、森林調査、哺乳類調査
調査手法	基礎調査：資料調査、保護林情報図の作成、概況調査 森林調査：プロット調査、トガサワラの毎木調査、 ライン高木調査、植物相調査 哺乳類調査：生息状況調査、巣箱かけ調査
結果概要	森林調査の結果から、各プロットで本数や胸高断面積合計に大きな変化はみられなかった。また、森林調査及び哺乳類調査の結果から、ニホンジカによるトガサワラ及び森林への被害は軽微であると考えられる。 ただし、植生調査及び実生調査の結果から、林床植生は貧弱であり、トガサワラを含む、高木種の実生及び稚樹が少ない状況であった。これは、保護林内が常緑広葉樹や常緑針葉樹が優占する林床の暗い樹林であり、実生や稚樹の定着を妨げている可能性がある。 現状では保護林内で目立つ森林の衰退はみられないと考えられるが、トガサワラの更新適地としての森林は維持されていないと推察される。 【確認された影響：ア. 野生鳥獣 カ. その他】 保護林内の森林全体では、目立って森林の衰退は見られないが、トガサワラの後継木が少ない状況である。 後継木となる稚樹の発生と定着方法については、森林総合研究所が 2022 年に取りまとめる報告書の内容を踏まえて検討する。 現状では、目立ったニホンジカによる森林への被害は見られないが、引き続きモニタリング調査を継続することが妥当である。

魚梁瀬トガサワラ（遺伝資源）希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	四国森林管理局安芸森林管理署管内
所在地	高知県馬路村（貝掛畑山国有林 2065 林班ほ小班）
面積	16.02 ha
設定年	設定：昭和 43 年 4 月 変更：平成 30 年 4 月
保護林の概要 （設定目的）	標高約 450～650m に位置し、暖温帯に属する。 トガサワラのほか、スギ、ヒノキ、モミ、ツガ、ウラジロガシ等が生育している。 希少種のトガサワラ（環境省レッドリスト(2015 年)の「絶滅危惧ⅠB 類(EN)」、高知県レッドリスト(2010 年)の「絶滅危惧Ⅱ類(VU)」）が生育しており、保護林設定管理要綱の第 4 の 3 (2) のア「希少化している個体群」に該当する。 トガサワラの個体群の維持・増殖を目的に設定。



モニタリング調査の概要

実施年度	令和 3 年度
調査項目	基礎調査、森林調査、哺乳類調査
調査手法	基礎調査：資料調査、保護林情報図の作成、概況調査 森林調査：プロット調査、トガサワラの毎木調査、 ライン高木調査、植物相調査 哺乳類調査：生息状況調査、巣箱かけ調査
結果概要	森林調査の結果から、各プロットで本数や胸高断面積合計に大きな変化はみられなかった。また、森林調査及び哺乳類調査の結果から、ニホンジカによるトガサワラ及び森林への被害は軽微であると考えられる。 ただし、植生調査及び実生調査の結果から、林床植生は貧弱であり、トガサワラを含む、高木種の実生及び稚樹が少ない状況であった。これは、保護林内が常緑広葉樹や常緑針葉樹が優占する林床の暗い樹林であり、実生や稚樹の定着を妨げている可能性がある。 現状では保護林内で目立つ森林の衰退はみられないと考えられるが、トガサワラの更新適地としての森林は維持されていないと推察される。 【確認された影響：ア. 野生鳥獣 カ. その他】 保護林内の森林全体では、目立って森林の衰退は見られないが、トガサワラの後継木が少ない状況である。 後継木となる稚樹の発生と定着方法については、森林総合研究所が 2022 年に取りまとめる報告書の内容を踏まえて検討する。 現状では、目立ったニホンジカによる森林への被害は見られないが、引き続きモニタリング調査を継続することが妥当である。

安田川山トガサワラ（遺伝資源）希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	四国森林管理局安芸森林管理署管内
所在地	高知県馬路村（安田川山国有林 2227 林班へ小班）
面積	4.31 ha
設定年	設定：昭和 48 年 4 月 変更：平成 30 年 4 月
保護林の概要 （設定目的）	標高約 590～820m に位置し、暖温帯に属する。 トガサワラのほか、スギ、ヒノキ、モミ、ツガ、ウラジロガシ等が生育している。 希少種のトガサワラ（環境省レッドリスト(2015 年)の「絶滅危惧ⅠB 類(EN)」、高知県レッドリスト(2010 年)の「絶滅危惧Ⅱ類(VU)」）が生育しており、保護林設定管理要綱の第 4 の 3 (2) のア「希少化している個体群」に該当する。 トガサワラの個体群の維持・増殖を目的に設定。



モニタリング調査の概要

実施年度	令和 3 年度
調査項目	基礎調査、森林調査、哺乳類調査
調査手法	基礎調査：資料調査、保護林情報図の作成、概況調査 森林調査：プロット調査、トガサワラの毎木調査、 ライン高木調査、植物相調査 哺乳類調査：生息状況調査、巣箱かけ調査
結果概要	森林調査の結果から、各プロットで本数や胸高断面積合計に大きな変化はみられなかった。また、森林調査及び哺乳類調査の結果から、ニホンジカによるトガサワラ及び森林への被害は軽微であると考えられる。 ただし、植生調査及び実生調査の結果から、林床植生は貧弱であり、トガサワラを含む、高木種の実生及び稚樹が少ない状況であった。これは、保護林内が常緑広葉樹や常緑針葉樹が優占する林床の暗い樹林であり、実生や稚樹の定着を妨げている可能性がある。 現状では保護林内で目立つ森林の衰退はみられないと考えられるが、トガサワラの更新適地としての森林は維持されていないと推察される。 【確認された影響：ア. 野生鳥獣 カ. その他】 保護林内の森林全体では、目立って森林の衰退は見られないが、トガサワラの後継木が少ない状況である。 後継木となる稚樹の発生と定着方法については、森林総合研究所が 2022 年に取りまとめる報告書の内容を踏まえて検討する。 現状では、目立ったニホンジカによる森林への被害は見られないが、引き続きモニタリング調査を継続することが妥当である。